2014年度の活動 🗽

7~1月に連続講座(7回)を実施。現場見学に加え、水についての気づきとその発信を考える 体験型ワークショップを行いました。事務局も不慣れなことが多く、もりだくさんでへとへとに なったり、話し合いが行き詰まったり、受講生もいっしょに試行錯誤した初年度でした。



2014年度の修了バッジ

連続講座=



7月12日(土) 開校式「水の学校とは?」~水から見えるわたしたちのくらし

ねらい

初回講座ということで、受講生同士が会話 したり、体を動かしながら水とくらしの接点 を感じられるプログラムを意図しました。一 般に向けて水のことを伝えてきた水ジャー ナリストの橋本淳司さんをファシリテー ターに講義と参加型の活動を行いました。

10~80代までの受講生にスタッフも混ざり、「水辺の思い出」を披露 したり、今住んでいる流域ごとにグループを作ったりして、共通点な どで盛り上がりました。市下水道課から武蔵野市の下水道の概要に ついても話しました。後半は、各自が水の粒になって、川、海、植物、 土など水のある場所をサイコロに従って巡る体験プログラム「驚異 の旅」で体を動かしました。橋本さんから水の旅に人間のくらしがど う関わっているか問題提起がありました。

事務局コメント 計画では2種 類の活動を用意していましたが、自 己紹介と一つ目の「驚異の旅」に 思った以上に時間がかかり、2つ目 の「水差しを回そう」は橋本さんと事 務局の話し合いで急きょ取りやめま した。皆が初めて出会う場では、雑 談の時間をとったり、盛り上がり始 めたら時間で区切らず様子を見な がら進めることも必要で、そのために も余裕をもったタイムテーブルを組 んでおかなくてはいけないとわかり ました。





8月2日(土) 武蔵野の水はどこから? ~奥多摩町水源の森訪問



ねらい

水道水の源について考えることを目的に、武 蔵野市の地下水の水源となっている奥多摩 町を訪ねました。奥多摩町の協力のもと森 林を五感で感じ、水を通した武蔵野市との つながりを伝える企画としました。

武蔵野市の水源林がある東京都奥多摩町を訪れ ました。バス車中では武蔵野市の水、奥多摩の水 などのきき水に挑戦、スタッフよりも受講生の正解 率がはるかに高くびっくりしました。奥多摩では、 樹齢1000年と言われる「倉沢のヒノキ」まで山を 登り、森林セラピーガイドの案内で、「登計トレイ ル」を散策。昼食には地元食材を使ったお弁当を 味わいました。

事務局コメント 現地に着い てから「大型バスではこの先は行 けない」と言われるトラブルがあ りましたが、町役場が出してくれ た車に分乗し、なんとか予定通り 実施できました。「倉沢のヒノキ」 への登り降りには、「ヒノキは大き かったが疲れも大きい!」などの 感想がありました。





9月6日(土) 見る・知る・ふれる下水道 ~三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館

三鷹市東部水再生センターを訪れ、汚水が処理され川に戻る までの工程について説明を受けた後実際に現場を見学しまし た。小平市ふれあい下水道館では、実際に使われている下水 道本管内部に入る体験をしました。館内では、汚水を分解する 微生物を観察したり、下水道の歴史についても見学しました。

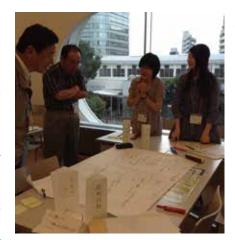
事務局コメント 汚水処理に微生物が活躍してい ることに驚いた受講生が多かったようです。「微生物の ために普段の排水に気をつけよう」「下水に愛着がわい た」などの感想がありました。



▲ 10月4日(土) 武蔵野市の水循環を考え、「環境フェスタ」で伝えよう

これまでを振り返り、ブース出展に向 けたアイデアを出し合いました。見学 時にはゆっくり話せなかったこと、水 の行方と源の両方を見て改めて感 じたこと等から特に市民に伝えたい ことを挙げ、伝え方についても考えま した。

事務局コメント 受講生の「説明 するにはまず自分が理解していないと」 等の声から、気づきを伝え、広げる手応 えを感じていることがうかがえました。



10月19日(日) 環境フェスタブース出展 「水の学校」ってなあに?

受講生のアイデアを受け、「きき 水体験」「むさしのの水3択クイ ズ」「下水道に流せる?流せな い?クイズ」のコーナーを作りま した。受講生も解説役として参 加しました。



11月15日(土) **ら** むさしのの今昔を巡る ~*のまちあるき

武蔵野台地の地形に詳しい平田英二さんを講師に迎 え、武蔵境地域を歩きました。玉川上水と仙川、水路 跡、駅南側の凹地などをめぐり、水との関わりでまちを 再発見し、成り立ちを考える機会としました。

事務局コメント 平田さんの下調べに基づき、下見を経 てコースを選定。「通っていた場所と水とのつながりを初め て知った」、「仙川の流路や水量の増減について少し謎が解 けた」など、講座と日常を結びつけたコメントがありました。



12月13日(土) ふりかえりから今後のアクションへ・水からはじめよう!

施設見学や講義は行わず、これまでの講座で得たもの や周囲へ伝えたいことを、受講生同士の話し合いを通 して、「水の学校の未来のプログラム」として形にしてい くことを目指しました。

事務局コメント 受講生から「水と生活との関わりに興 味が深まったが今後のテーマは難しい」「今までになく深い お話ができた」「楽しく知ることが大切」など様々な意見が出 され、刺激し合いながら議論が盛り上がりました。



Ⅰ月24日(土) 修了式「水の学校」が考える水の未来

初回同様、橋本淳司さんを講師に迎え、 前回決めたテーマに基づいてグループご とに下調べをして来た結果を講座チラシ という形にまとめて発表しました。後半は 邑上市長から受講生一人ひとりに修了 証が授与され、その後会場を移して交流 会を行いました。

事務局コメント 写真の切り抜 き、文房具など短時間で仕上げるた めの素材を準備し、「チラシ作り」を 通して企画の骨格を固めました。実 際に、水車や三河島汚水処分場跡の 見学、水質講座などのアイデアが次 年度以降の企画につながりました。

受講生 27名 サポーター13名

Pick Up 2014

開校記念講演「世界の水、武蔵野の水」

講師:橋本淳司「水の学校」名誉校長(ホジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)

7/12(土)の午前中に、初回講座に先立ち開校記念講演を開催し、約80 名が集まりました。橋本淳司さんは国内外の水事情を取材し、多くの著 作を発表しています。日本は食糧や衣料品などの形で多くの水を海外か ら輸入しているなど、世界の水危機とくらしの関係についての話があり、 参加者にとって水についての新たな視点の獲得につながったようでした。 邑上市長も出席し、市民のみなさんと共に水環境を改めて考える「水の 学校」の意義について話しました。



事務局コメント午前中に一般向けの記念講 演、午後は連続講座の受講生のみを対象にした開 校式・初回講座という構成でした。週末の開催でし たが、市の他部署からの参加も多くありました。 橋本さんには「水の学校名誉校長」として、その後の 年も継続して初回と最終回の講師をお願いしてい ます。節目ごとに、俯瞰的に講座についての意見を 聞くこと、毎回水についての新しい情報を得られる ことが受講生にもスタッフにもよい刺激になってい ます。

受講生の疑問&気づきを集めた 「Oh! 水~むさしのの水のものがたり」

受講生の声をもとに、「武蔵野市の水について一通り伝える」というねらいで作 成しました。下水道だけではなく、「水源」「上水道」「雨水のゆくえ」についても 説明し、さまざまな入り口から水を知ることができます。また受講生の関心が高 かった「水質」や「仙川の復活」、驚きの声が多かった汚水処理には微生物が活 躍しているという情報などを盛り込みました。

受講生有志から出た 事務局コメント 「ぜひ伝えたいポイント」「特に驚いたこと」を 整理しながら編集しました。外面と内面でメ リハリをつけ、外側は手にとってもらいやすい ようにビジュアルとキーワードを入れ込み、細 かい情報は内側の見開きに集約しました。 初年度以降もイベントごとに配ったり、サ ポーターが周囲に「水の学校」を紹介すると きなどに活用され、裾野を広げるツールとし て活躍しています。



関連イベント

7月27日(日) とんぼ池のかいぼり体験

10月19日(日) 環境フェスタ

11月12日(水) ハザードマップを知っていますか?~今日から始める、水害への備え

1月17日(土) クリーンセンター環境講座~廃油キャンドルをつくろう

2月7日(土) 武蔵野の水はどこへ~下水道の最先端を知る大人の社会科見学

都合により延期 多摩川河口域クルージング

事務局カレンダー

4 月

・事業の打ち合わせ

・パンフレット入稿

5 月 · 市報入稿

・連続講座募集期間

月 ・第 | 回講座・特別講演 の打ち合わせ

・第2回講座下見

月・第Ⅰ回講座・特別講演

・第2回講座

8 月 ・第5回講座打ち合わせ

·第3回講座下見

・第3回講座

月 . 第5回講座下見

・第4回講座

月 ・環境フェスタブース出展

・次年度企画ミーティング

・第5回講座

月 ・第6回講座打ち合わせ

・第7回講座打ち合わせ

2月 ·第6回講座

・第7回講座、修了式

月 ・サポーター登録

・啓発パンフレット (Oh! 2 月 水)ミーティング(2回)

・啓発パンフレット (Oh! 水)入稿

・次年度企画ミーティング

情報収集や下見、打ち合わ せなど、毎週のように関係者 が顔を合わせていました。



コラム・水の学校の送り手たち



「水の学校」は、主管課が手掛ける下水道事業だけではなく、水源の保全、上水道事業、地形や気候、地域の歴史、世界の水事情など、水にかかわるあらゆる分野を視野に入れた取り組みです。そのため、立ち上げ時から現在に至るまで多くの方に支えられて、一つひとつの講座を実施してきました。ここですべてを紹介することはできませんが、「水の学校」の核を担ってきたみなさんです。

NPO法人雨水市民の会 -

1994年に東京都墨田区で開催された「雨水利用東京国際会議」の実行委員会に参画した市民(研究者・会社員・学生・市民団体メンバー・行政職員等)が母体となって発足した団体。行政・企業・大学等との連携により、雨水活用を中心に水循環や環境に関する市民向けイベントを企画・運営してきた実績があり、立ち上げからプログラム運営、職員の研修、広報など様々な場面で密に連携しながら事業を進めてきました。



笹川みちる

NPO法人雨水市民の会理事、 内閣官房水循環政策本部「水循環の施策に関する有識者会議」委員(2018年10月より)

環境学習施設やイベントなどで雨水活用や水循環について 市民に伝える普及啓発事業に従事。「水の学校」初期の企 画立案・運営を担当し、市担当課との二人三脚で現在の 「水の学校」のスタイルができあがりました。



やとじい 平田英二

水路たんけんクラブ主宰(武蔵野台地の河川と谷戸の研究)、 練馬区文化財保護推進員・区民学芸員、石神井公園ふるさと文化館サポーター

武蔵野台地を中心に、川、用水やその痕跡、水に関わる地形を探訪し、数多くのツアーガイドや講演を実施。中でも「谷戸」地形を語ると止まらないところから「やとじい」のニックネームがつきました。

2014、15、16年度の第5回会講座、2018年度の第4回講座を担当。武蔵野台地の成り立ちから市内の微地形まで、水という切り口で見ることで、見慣れたまちにも新しい発見があることを、まちあるきを通じて教えていただきました。



神谷博

水みち研究会、NPO法人雨水まちづくりサポート理事長、 一級建築士、法政大学兼任講師

野川流域を中心に武蔵野台地の水のめぐりについて30年以上調査・研究を続ける専門家。2016、2017年度の第4回講座を担当し、武蔵野市周辺の湧水スポットを回りながら雨の行方と地下水の関係、地形と歴史の関係について幅広くお話いただきました。

東京都下水道局流域下水道本部

流域下水道は、市町村の枠を越え、広域的かつ効率的な下水の排除、処理を目的としていて、幹線管きょと終末水再生センターの基幹施設からなります。東京都下水道局流域下水道本部では、流域下水道の建設や維持管理を行うとともに流域下水道と流域関連公共下水道の整合を図るために、関係市町に対して、技術指導等を行なっています。2016~2018年度の第3回講座と2015年度の公開講座で水再生センターの見学に対応していただきました。

武蔵野市環境部各課、水道部、市各部署

「水の学校」は環境部下水道課が事務局として運営してきました。当課は限られた財源の中で、下水道施設の老朽化対策、都市型浸水や地震への対応、湧水復活などの多様な課題の解決に向けて取り組んでいます。下水道施設を持続させたり、よりよい水の循環をつくりだしたりするためには市民のみなさまのご協力が不可欠です。そこで当課では、「水の学校」をはじめとする啓発事業にも力を入れています。また「水の学校」は、環境部各課・水道部ほか市の各部署と連携し、協力を得て全体の事業を進めてきました。

奥多摩町 観光産業課

奥多摩町は、東京都の10分の1に当たる225.53平方キロメートルという広大な面積を有し、水と緑を大切にし、人と自然との調和した潤いのある町です。こちらでは2014年度の第2回講座と2015年度の第3回講座で奥多摩町の水源の森をガイドしていただきました。また、大型バスが入れない緊急事態にも柔軟に対応していただきました。

小平市(ふれあい下水道館)、三鷹市(東部水再生センター、三鷹の水車「しんぐるま」)、国土交通省京浜河川事務所、下水道広報プラットホーム

その他公的機関、教育機関、企業、市民団体など多数の 方々のお力添えがあり運営を行ってきました。



🚧 2015年度の活動 🖎



6~12月まで6回の連続講座を実施。これが連続講座の基本的な形となりました。第5回で は昨年度の受講生からのアイデアを元に「生活を支える水」という視点で三鷹の水車を訪ね ました。後半から受講生・修了生のためのステップアップ講座が始まりました。



2015年度の修了バッジ

連続講座 ==



6月13日(土) 開校式 ~もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

「水の学校」の概要説明の後、4択式の「武蔵野水クイズ」 を実施。後半は橋本名誉校長の進行で、水の粒になって 雲・海・地下水などをめぐる「驚異の旅」、架空のまちの上下 水道の整備ルート・コストを考える参加型アクティビティ 「正当な価格」に取り組みました。

事務局コメント 受講生からは「これからの講座が楽し み」というコメントが多くあり、事務局として大いに励まされま した。初仕事としてアクティビティをリードしたサポーターから は「上下水道のコストの問題は奥深い」「昨年より(プログラ ムに)進歩が見られました」といった声がありました。

7月25日(土) 使った水はどこに行く ~三鷹市東部水再生センター・小平市ふれあい下水道館見学

第2回、第3回講座は、新しい試みとして受講生・サポーターに加え一般参加の枠を設けました。使った水のゆくえを知る ことを目的に、午前中は三鷹市の東部水再生センターで実際に稼働している処理施設を見学し、午後は小平市ふれあい 下水道館を訪れ、現役の下水道管に入る体験をしました。

三鷹市は市内で排水される汚水の一部を市内で独自に処理していますが、武蔵野市は下水処理施設を持たず、汚水は 市外3ヶ所にある東京都の水再生センターへ送って処理をしていることも参加者には新たな発見だったようです。



自治体として日本で初めて 下水道普及率100%を達成 した三鷹市。昭和40年代に 下水道普及に力を注いだ市 長・鈴木平三郎氏の言葉が センター入り口に掲げられて います。処理後の再生水は 仙川に放流されており、武蔵 野市内では涸れ川の箇所が 多い仙川ですが、ここでは水 量が豊かで参加者から驚き の声が上がっていました。



ふれあい下水道館では地下 25mの下水道本管内部に入 り、臭いや湿気を直接感じる ことができます。下水道は勾 配をつけて汚水を運ぶ「自 然流下方式」で作られてい るため、太い管ほど深いとこ ろを流れています。汚水と雨 水を同じ管で流す合流式下 水道なので、豪雨の際に急 激に水量が増える様子を映 像で見ることができます。

9月5日(土) 武蔵野の水はどこから? ~水を育む森の「むかし道」を訪ねよう

武蔵野市の水道原水の8割を占める地下水の源の一つである奥多摩町を訪ねまし た。バス車内で市職員が水源林保全活動について説明し、現地では地元食材を使っ たお弁当を味わい、現地ガイドの案内で青梅街道の旧道「むかし道」をたどりました。

事務局コメント参加者からは、「離れていても大事にしなければと思った」「ずいぶん遠 くから飲まれに来ていると思うと心苦しくなった」といったコメントがありました。全体を4グ ループに分け、奥多摩町の紹介による現地ガイドを手配したほか、市職員、サポーターを各グ ループに置き、奥多摩町職員の方にも案内と安全管理の面でサポートいただきました。







10月10日(土) 武蔵野を支えた水の力 ~水車見学と地粉うどん

ねらい

昨年度の最終講座で受講生が考えた「水 の学校の未来のプログラム」を元に企画し ました。かつて武蔵野台地にあった水車の 仕組みと役割、当時の生活の様子を知る ことができる構成となっています。市内で 小麦栽培を復活させ食文化を伝える「武 蔵野地粉うどんプロジェクト」の協力で、市 内産小麦を配合した地粉うどんの試食も 取り入れ、食を通した親睦を図りました。

事務局コメント 体験コーナーでは、石臼を 手慣れた様子で回す受講生もいて、道具をきっか けに子ども時代の話などで盛り上がりました。「水 車のイメージが変わった。水の力が伝わっていく様 子が見事で感動した。」という感想や、試食サイズ の地粉うどんについて「もっと食べたかった。今度 お店に食べにきます。」という声もありました。

三鷹市大沢の野川沿いにある「大沢の里・水車経営農家(しんぐる ま)」を特別公開に合わせて訪問しました。江戸時代から昭和40年代 まで、製粉・精米などに使われていた水車が再現され、特別公開時の み精米などの実演を見ることができます。稼働している様子はさなが ら水で動く工場のようで、当時の技術力の高さに驚きの声が上がりま した。

うどん屋さんでは、かつて市内でさかんに栽培されていた小麦を中心 とした武蔵野の食文化についてのお話を聞き、地粉うどんを味わいま した。皆で同じものを食べることで話もはずみ、印象深い時間となりま した。





11月21日(土) 武蔵野の小さなでこぼこをあるく~水害の理由とわたしたちができること



「やとじい」こと平田英二さんを迎え、武蔵野台地の地形の成り立ち をひも解き、市内吉祥寺北町の凹地(くぼち)を体感しました。後半 は浸水被害とその対策について話し合いました。

事務局コメント「点と線でしか街を見ていなかったが、面で捉える ことができた」というコメントがあり、水との関わりで街を捉える面白さが 伝わったという手応えを感じました。住宅街を歩いたので、10人弱のグ ループを各々サポーターが引率し、ディスカッションのリーダー役としても 活躍しました。

12月12日(土)

6 最終講座・修了式「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

過去5回の講座を振り返り、「もっと深めたいテーマ」についてグループで話 し合いました。仙川の復活、雨水活用、水質の見える化などについてアイデ アが出されました。

受講生33名 サポーター19名

公開講座・関連イベント

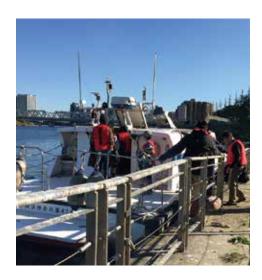
サポーターの協力を得て、ツアー、お祭り、写真展など様々な形で一般向けの講座・イベントに力を入れた年でした。関連イベントに5回参加すると「水の学校」記念 バッジを贈呈する試みを行ったり、連続講座の一部にも一般参加枠を設けました。



記念バッジ

12月5日

多摩川河口域水上散歩



事務局コメント 職員、雨水市民の会担当者が三鷹駅から参加者を引率しました。京浜河川事務所担当者のガイドで水門や橋、工場などの解説があり、川とくらしの関わりを身近に感じられたと思います。小学生から70代まで幅広い層が参加し、講座後に自分で多摩川の源流を見に行き、写真を持って下水道課に報告に来た方もいました。

下水道写真家 白汚 零 写真展「足もとに広がる地下水道」

新たな視点で下水道の魅力を はた。はじめは人前でのより にあまり積極が、打ちる力でなられてすが、打ちる力ではなられですが、大オープを はいでは、ボストークをお願いしまがですが、しまいでは、武蔵野市のほかと、武蔵野市のほかと、近野市のほか、大通り幹線のほか、国した。 とは、近りは、は、は、国には、のは、大道の計には、を とは、の計には、は、のは、した。



事務局コメント 武蔵野プレイスのギャラリーにて実施したため、通りすがりに目を止める人も多くいました。スタッフー同写真の展示は初めての体験で、作品の選定、専用の梱包と輸送、ライティングなど白汚さんご自身のサポートと立会いで実現にこぎつけた企画です。

訪れた人から「地下にこんな空間があったとは知らなかった」「美しい」「面白い」といったコメントが寄せられました。

関連イベント

水道水はどうやって作られる?市内浄水場見学 6月7日(日)

吉祥寺北町の第一浄水場にて開催。4回の見学ツアーに186名 が参加しました。浄水場職員が案内役となり、武蔵野市の水道水 は、約80%を市内で汲み上げた地下水が占めていること、その処 理工程、24時間休みなく水質・水量の管理を行っている様子を紹 介しました。

6月20日(土) 多摩川の下にトンネルあり!下水道連絡管施設を歩こう!

小学生から大人まで31名が参加し、多摩川上流水再生センター と八王子水再生センターを多摩川の下でつなぐ地下トンネルを見 学しました。「冒険みたい」という感想や、ここで処理した再生水が 玉川上水へ送られているという説明に、驚きの声が上がりました。

9月26日(土) 日本初の近代下水処理施設、 旧三河島汚水処分場ポンプ場と水再生センター見学

| 1922 (大正 | 1) 年~ | 1999 (平成 | 1) 年まで稼働していた日本初の近 代下水処理施設の遺構と隣接する稼働中の水再生センターをバ スで訪れ、見学しました。ポンプ場の建物や下水の流入部などの精 緻な造りと、熱心なガイドに参加者も感嘆していました。

6月27日(土) 3R 環境講座「紙すき体験」

7月18日(土) 関前公園とんぼ池のかいぼり体験

11月1日(日) むさしの環境フェスタ

ステップアップ 講座

10月17日(土) 第1回「水循環・水収支」

11月28日(土) 第2回「川と上水」

12月19日(土) 第3回「下水道の施設更新・耐震化・使用料」

サポーター活動

3月5日(土) **かいぼり・池底ツアー**



サポーター発の初めての企画として、かいぼり中の井の 頭池の池底を歩くツアーを行いました。井の頭線・鷹の 台駅から出発し、市内の下水道管から神田川への雨水 吐口、神田川源流部を見た後、NPO法人生態工房の方 の案内で水が抜けた井の頭池の底を歩きました。弁天 様の裏側ではチョロチョロと湧き出す水にみなさんから 歓声が上がっていました。

サポーターが生態工房との連絡、参加の呼びかけを担 当し、職員、雨水市民の会の担当者も一緒に参加しまし た。

3月5日(土) 仙川探検隊のためのミーティング 2016年4月2日(土) 仙川探検隊

お花見を兼ねて開催。水辺にまつわる昔話や「こんな空間 にしたい」という未来のアイデアを話し合いました。仙川を 考える取り組みは今も継続中です。



事務局カレンダー

・パンフレット入稿 4 月・初回講座打ち合わせ

・市報入稿

·連続講座募集期間 5 月 · 第3回講座下見

・サポーターオリエンテーション

り月・初回講座

・第2回講座打ち合わせ 月 ·第2回講座

水えんにち 月・第3回講座打ち合わせ

·第4回講座下見 9 月 · 第3回講座

・第8回国土交通大臣賞「循 環のみち下水道賞」授賞式

・サポーターミーティング

・第5回講座下見

・第4回講座

0月・サポーターミーティング

ステップアップ講座第 | 回

・環境フェスタブース出展

月 ・第5回講座

・第6回講座打ち合わせ

・ステップアップ講座第2回

2月・ポーター登録 ・第6回講座、修了式

・ステップアップ講座第3回

日 ・白汚零写真展

・サポーターミーティング

・サポーターミーティング

サポーターが誕生! 外部への「水の学校」PR にも力を入れました。



Pick Up 2015

水えんにち

「水の日」に合わせ、8/I(土)に子どもから幅広く水に親しんでもらうイベントを開催しました。きき水体験、市内専門学校の学生さんによる「墨流しアート」体験などのほか、商店会の協力でかき氷とひっつみ汁の販売も行いました。サポーターが中心となって運営した「水でっぽうで的あて」、「スーパーボールすくい」も大人気、会場から5分ほどの第一浄水場でもこの日に合わせて内部の見学会を行いました。

事務局コメント 昨年度の最終講座で「子どもたちにも武蔵野の水のことを伝えたい」という声が多かったことから企画しました。 受講生3名、サポーター6名が企画・運営に参加しました。

事前準備では出展・協力先はもちろん、地元の商店会や保健所、テント業者との調整も必要になりました。真夏の開催だったためスタッフの健康、安全管理などにも一層の配慮が求められるなど、単独でイベントを開催するのは負担が大きいことがわかり翌年度以降は実現していませんが、的あてや墨流しなどに途切れることなく子どもたちが訪れ、体験を通して水に親しんでもらう意義に改めて気がつくきっかけにもなりました。



会場:武蔵野市立中央図書館前庭・視聴覚ホール、武蔵野市第一浄水場

来場:約1000名 主催:武蔵野市

協力:大野田商店会、管工事業協同組合、武蔵野美術学園





第8回国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」受賞



事務局コメント 対外的に評価いただき、事務局一同、さらによいものにしていこうと熱意が高まりましたし、市の職員にも「水の学校」が注目されるきっかけになりました。担当者が「2014年度の活動での受賞はみなさんへの賞ということ」とミーティングでお話しし、サポーター | 期生のみなさんがとても喜んでくれたことが印象に残っています。

この年、2年目を迎えた「水の学校」が、 循環のみち下水道賞(広報部門)・国土 交通大臣賞を受賞しました。

循環のみち下水道賞は、下水道の使命を果たし、社会に貢献した好事例を表彰する国土交通大臣賞として平成20年度から毎年表彰を行っているもので、受賞者の助績を称えるとともに、他の多部で可能な社会の構築に貢を全国がのみち下水道」のよりで、受く続い、貢金とを目的としています。9月には国外で表彰されてのプレゼンテーションを行いました。

講座ができるまで



アイデア出し

を配ったり、新しい を配ったり、新しい 視点で伝える方法 を意識しています!

下水道課

関連部署

雨水市民の会

゙゙ 受講生・サポーター

質問や要望から 講座が生まれるこ とも多くあります。

ラインナップは前年の秋頃か ら考え始めます。5カ年の積み 重ねで、必ず伝えたい定番講 座にその年の独自企画を | 回 は加えるというスタイルになり ました。

> 日常生活に持ち帰って 水の巡りを感じられる流 れをこころがけています!

オープン講座・ステップアップ講座

年度中に随時、サポーターか らの提案などを取り入れなが ら企画します。発案から実施 まで長い時は半年以上かかる こともあります。

体制づくり

スタッフ編成

講座の内容から必要 なスタッフの人数を割 りだし、体制を組みま す。講座は市民の声に 直接ふれる大切な場 となっています。

講師など

テーマに応じて外部 講師や見学先の関係 者に協力を依頼しま

サポーター墓集

サポーターにも声をかけ、 参加者を把握します。

打ち合わせ

講師、見学先など の関係者と打ち合 わせをし、おおよそ の流れを作ります。 見学の見どころや ワークショップの テーマについても 案を出し合います。

 $\overline{}$ 当 見に Н

参 ポ

加

患

合

主

ター

の

補 助

解

説

担

当

スタッフ間の共有 当日のねらいを共 有するために、 「受講生からどん な言葉をききたい か、引き出したい か」という切り口 で意見を出し合う こともあります。

下見

4

下見後、必ず見せたい場所の確認や 受講生に考えてほしいテーマなど細 かい部分まで内容を決め込んでいき ます。

施設見学では、事前質問を募集し、あ らかじめ施設に伝えます。

チェックリスト

- □ 雨の日の対応
- □ 食事やトイレの場所・タイミング
- □ バスのルート、乗降場所
- □ 病気・ケガなどの対策 □ 緊急時の対応
- □ 時間配分の確認

行きたい場所が多 い場合は下見で絞 り込むこともありま す。少人数の下見で しか見られない場 所を特別に見学で きることもあり、大 変ながらも楽しみ なプロセスです!

施設見学

担当スタッフが事前に訪れ、見学 先の担当者といっしょに一通り下 見をします。パンフレットなどの配 布資料も確認、手配します。

ツアー、まちあるき

水源地の奥多摩町訪問、武蔵野 台地の湧水めぐり、市内まちある きなどは、候補ルートをなるべく当 日と同じ条件で時間を測りながら 回ります。スタッフがコースを把握 するとともに、歩く距離やスピード に無理がないか、バスの手配に必 要なことなどを確かめます。

サポーター打ち合わせ

内容に応じて、事 前に打ち合わせを して各自準備をお 願いしたり、当日 早めに集合して役 割の確認をします

役割分担

レジュメ

講座のテーマ、おおよその流れをまとめます。 連続講座の場合は、A4の上半分にその日の 予定、下半分は次回の予定や持ちもの、当日 の連絡先を記載します。

解説資料・ワークショップ道具など

講座のテーマに応じて解説資料を準備しま す。外部講師や見学先の施設の方に依頼し たり、既存パンフレットも活用します。まちあ るきの場合はルート図を作成し、WS用に書 き込み式のシートを用意することもありま す。ワークショップの内容に応じて、模造紙 やふせん、マジックなども準備します。

事務局

進行

•撮影 ・タイムキーパー

学びを 支える

解説

•専門的解説 ・施設ガイド

外部等

もちろんこの通りに進ま ないこともありますが、みんなの拠り所です!

進行表

大勢のスタッフが スムーズに動くた めに当日の準備、 本番、片付けまで を大きな一覧にし たものです。いつ 何をするか、その 時に準備するもの や担当者が書かれ ています。

6

講座本番!!



がんばろう



✓ 2016年度の活動 い



委託先の雨水市民の会に代わり、市職員が講座の進行やワークショップのファシリテー ションを担当するようになりました。「職員研修」の形で環境部の各課から集まったメンバー が回ごとにチームを組んで、講座の運営を行いました。



2016年度の修了バッジ

連続講座=



6月11日(土) 開校式 ~もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

この年の開校式では下水道課長から下水 道の歴史と「水の学校」の意義を話し、講 座内の参加型ワークでは、仮想の街の地 下水のヒ素汚染の原因を探りました。

事務局コメントこの年からは各講座について、市職員が司会やアイ スブレイク(クイズ等)の進行を行いました。堅い会議ではなく、柔らかく楽 しい雰囲気にするために、最初の挨拶と笑顔が大事という雨水市民の会 からのアドバイスは、その後の講座づくりにも受け継いでいます。



7月2日(土) 武蔵野の水はどこから? ~水道水がつくられる場所を訪ねよう

水道部職員から武蔵野市の水道事業の概要を説明した後、第一浄水 場内見学を行いました。浄水場内でしか体験できない地下水100%の 水を試飲したり、給水バッグの重さを体験したり、まちなかにある水源 井戸の見学も行いました。ワークショップでは、3種類の水の飲みくら べを実施し、更にペットボトルのラベルを読み解きながら違いについて グループで話し合い、解説を行いました。普段の水の使い方を振り返 り、今後どうしていくかアイデアを出し合いました。



普段自分たちが使ってい る水道水がどのように安 全な水質を保ち、安定し て作られているのかを知 り、生活の中での水の使 い方を問い直すこと、ま た、様々な水を味わうこと で水に関して更に関心を 持つことをねらいとしまし た。

事務局コメント 熱心な受講生 は、受講前から水に思い入れがある のかと思っていましたが、話を聞くと 市報や無作為抽出の案内で講座を知 るまで関心はそれほどなかったとのこ とでした。「水の学校」に参加したこと で水の大切さが分かり興味が湧き、そ の後サポーターとなり活躍をしている 方もいます。







9月10日(土) 使った水はどこに行く? ~多摩川上流水再生センター見学



多摩川上流水再生センター 見学後、多摩川の川底下の連 絡管を歩き、対岸の八王子水 再生センターを見学しました。 実際に下水処理に働いている 微生物を顕微鏡で観察するこ ともできました。

事務局コメント 往路の交通渋滞で30分ほど遅れ ました。ワークショップの時間が取れず、帰りは高速道 路を使ったものの、解散予定時刻を過ぎてしまいまし たが、帰りのバス内で、その日の皆さんの感想を発表し たことで、他の受講生がどう感じたかも分かり、バスの 中で一体感を感じる瞬間でもありました。

✓ 10月 | 日(土) 「流域」で考える、雨とまちの関係 ~野川の取り組みと武蔵野台地の水循環

ねらい

下水道は、汚水と合わせて雨水を排 除する役割を担っていますが、都市 化により全体の水循環のバランスが 崩れ、様々な問題が起きています。こ の講座では、雨は降った後にどこへ 行くのかを意識し、自分たちの生活 と他市を含む流域との関係を知るこ とをねらいとして、仙川、野川、深大 寺の現状を見学しました。

事務局コメント 現地説明では後ろの方 に聞こえない場面もありました。ビニールシー トを敷いての昼食は受講生同士の距離も少 し縮まるようです。受講生に対して「伝える」と いうことを重視しすぎてしまったように感じて いましたが、感想を読むと受講生はそれぞれ に「気づき」を持っていることが分かりました。

神谷博さんを講師に、雨のゆくえと地形、湧水について考える講座を行いま した。まず桜堤公園で市職員から仙川リメイクの説明をした後、武蔵国分 寺公園に向かい、国分寺の史跡や湧水群、真姿の池、万葉植物園の見学 をしました。野川公園に移動して昼食をとり、湧水広場や自然観察園を見 学しました。さらに深大寺に移動して史跡や湧水の見学を行いました。多く のポイントを回るため、移動にはバスを使いました。ワークショップでは「雨」 「野川公園」などテーブル毎にテーマを設定し、順にテーブルを移動しつつ 気づいたことを話し合いました。





る | |月|9日(土) 玉川上水と神田川 ~武蔵野台地の水事情を探る

神田川源流部、玉川上水の散策を通 して地形や川と上水の成り立ちの違 いを学び、「武蔵野市内の水の流れ と、市民にできることを考える」を テーマに話し合いを行いました。

ねらい

50m崖線の湧水を水源に武蔵野台地をもとから流れていた自然河川「神 田川」と、台地の背を引いた人工河川の「玉川上水」の比較を通して、市内 の10mぐらいの高低差の間で、雨水を浸透や貯留などの手法でどれだけ ゆっくり流すか、講師の平田英二さんと共に意義と課題を探りました。

6 12月10日(土) 最終講座・修了式「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

最終講座ではこれまでを振り返り行動や意識の変化を共有し、さらに水 に関してやってみたいこと、深めたいことを話し合い、発表しました。水の 学校サポーターからは活動事例の紹介がありました。

事務局コメント 全6回の講座を通じ、受講生が「水」について深く学び、 今後も意欲的に「もっと学びたい」「人に伝えたい」と感じていることを知りまし た。一方で、市と一緒に自分たちが何かをするという結びつきの意識はまだ弱 いように感じました。市民の力が必要であることを、もっと表現できると良かっ たと思います。





受講生34名 サポーター17名

オープン講座・イベント

サポーター活動が本格化し、8月にはサポーターが企画の中心となって一般の方に 水のことを伝えるオープン講座を2回開催しました。サポーター同士の年度を超えた 交流も深まり、東京近郊の湧水をめぐる自主企画が多く開催されました。



8月12日 (金)

オープン講座「地下 25m の地底探検と玉川上水に出かけよう」

バスで小平市ふれあい下水 道館に向かい、館を見学し た後、東京都薬用植物園ま での4km弱、玉川上水沿い を散策しました。サポーター は参加者の理解が深まるよ うなバス内プログラムや道中 の案内を行いました。



事務局コメント 本番には参加できないサポーターも下見をに見たした。また、暑い時期にありませずお互いのよく様子を見なのはずお互いのよく様子を見ながあるように、参加者を呼びかけました。次年度がある。次年度がいました。次年度からは、では気候の良い時期に行い、場い時期は座学としています。

8月23日 (火)

オープン講座「小学生のための浄水場見学&水質講座」

小学生と保護者を対象に、 武蔵野市の水道の概要についての説明に続いて浄水を見学し、水質実験では水気を見学し、水質実験がはないました。実験では水のほか、雨水を加えた3種についてpH、硬度、サポーターが説明や実験のフォローを行いました。



事務局コメント 「水の学校」 サポーターの企画で、講座の構成 決めから何度も打合せを行い。 場で実験の予行も行いました。 水場の見学資料は、小学生にもの るサポーターと一緒に考えて安かりやすいようにと教 るサポーターと一緒に考えて安かとした。 が当れたの を加えました。小学生を主な保の としながら、一緒に関していたの としながら、本の でした。水の 関していました。 代の 路を課題としていました が、新たな道が見えたようにも いました。

サポーター活動

湧游会

「水の学校」を修了した有志のみなさんの「湧遊会」という親睦グループが都内の湧水 めぐりの活動をしています。身近な湧水の現状を知るとともに、参加者同士の親睦を深 め、水にまつわる様々な情報交換を行っています。湧遊会で散策したコースは、その後 の連続講座やステップアップ講座のコース決めにも活きています。

5月7日(土) 田村酒造見学と羽村の水めぐりツアー

6月18日(土) お鷹の道・真姿の池湧水群

9月17日(土) 善福寺~有栖川宮記念公園、都心の湧水めぐり

|10月||5日(土) 江戸の情緒が漂う水辺の下町散歩

11月26日(土) 東京都水道歴史館と東大キャンパスの紅葉

2月28日(火) 都立農業高校の神代農場見学 3月25日(土) 湧水と桜花をめぐる散策会





サポーター同士の情報交換

水にまつわる講演会等の情報として、かいぼり報告会、武蔵野市郷土史会、雑学大学、 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会、むさしのFMへの生放送出演などの情報をサ ポーターメーリングリストで共有しました。

サポーター自主活動への職員の関わり

職員もサポーターメーリングリストに参加し、自主活動にも時々顔を出しました。自主活 動ではサポーターが主導で、先生役でもあります。毎回、サポーターのみなさんは職員 を優しく迎え入れてくれます。

エコプラザ(仮称)への関わり

市民の環境活動の拠点として2020年度に開設を予定している、エコプラザ(仮称)に 関する検討市民会議の委員として | 名のサポーターが継続して関わっています。

事務局カレンダー

・パンフレット入稿 4 月 · 市報入稿

・サポーターミーティング

・初回講座打ち合わせ

・連続講座募集期間 5 月 . 「水の学校」パネル展示

・職員研修オリエンテー ション

・第2回講座打ち合わせ・初回講座

・第2回講座

·第3回講座下見 8 月 ・オープン講座(2回)

・第3回講座 9 月 · 第3回調座下見

・サポーターミーティング

月 ・第5回講座下見

・第4回講座

・第6回講座打合せ

月 ・環境フェスタブース出展

・第5回講座

第6回講座、修了式 2月・サポーター登録

・サポーターミーティング

月 ・職員研修まとめ

・サポーターミーティング

・ステップアップ講座

担当が変わり、 1年の流れを つかむのが やっとでした。



Pick Up 2016

職員研修

市では様々な分野の啓発事業を行っており、課題解決のために市民との協働が求められる場面も多くあります。この年は、市民協働型の企画立案・実施を行うためのスキルを身に付けることを目的として、NPO法人雨水市民の会の笹川みちるさんを講師に環境部の啓発担当者向けに、水の学校を実践の場として職員研修を行いました。

オリエンテーション

研修目的を共有したのち、アイスブレークでペアインタビューを行い、お互いの理解を深めるとともに「アイスブレークとはどんなものか」を体感しました。

その後、「水の学校」の全体の構成と、研修の進め方について説明があり、研修で使うワークシートを練習で記入しました。

Ⅰ人Ⅰ講座担当することで、Ⅰ回の講座につき2 ~3人が研修を行うこととなりました。

講座の役割分担

「今回の研修で学びたいことにふさわしい役割か」「所属する課の事業をPRできるような場面はどこか」を踏まえながら、「司会」「アイスブレーク」「ワークショップのファシリテーター」「記録」を分担しました。

ワークシートを用いた事前打合せ&事後振り返り

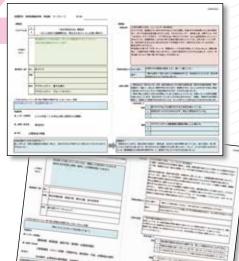
自身が担当する講座について、ワークシートを中心に事前打合せと事後 振り返りを行いました。

Ⅰ. [講座3日前までに]ワークシートの左側に記入→講師に送付

その回の研修生同士で打ち合わせを行い、「ねらい」「構成要素:導入(アイスブレーク)・体験・参加」「いちばん伝えたいこと」を確認してから、各自、研修を通してこれだけは学びたい!と思う目標を設定します。

2. [講座終了後2週間以内に]ワークシートの右側を完成→講師に送付

各自、「当日の要約」「受講生感想からねらい通りの感想、意外だった感想」「自身の最も印象的なエピソード」「全体を通しての発見・課題」「事前ワークシートで立てた目標の到達度」を記入し、研修メンバーで共有しました。記入内容の一部は水の学校ニュースレターの原稿としても使用しました。





まとめ

研修を通して、スタッフの打合せ不足などの課題を感じた場面もありましたが、自由に意見を出し合う場づくりの大切さや手法に気づいたり、受講生や他部署職員など多様な視点が加わることで、職員側の理解も進むなどの成果がありました。今後の講座については、下水だけの視点にとらわれない、環境全体への視点が大事だという気づきもありました。これらの振り返りを踏まえた研修成果発表として、プログラムの企画提案を行いました。

テーマ:「水」を切り口にした環境部による啓発講座シリーズ〜武蔵野市の水と生活

講座の中で、受講生の発言の 機会を設け、「自ら考える」と いう講座の進め方が、受講生の 満足度向上につながることが 非常によく分かりました。

今回等人だ。講座の進め方は自分の課の事業でも生かしていきたいと思います!

今日の研修で1次の対系 ほど普段でなことがかいことを体験できてよかた。 環境にかけ、そうと知識 と高める悠安を感じた。

コラム ニュースレターとは?



「水の学校」では、活動の様子や水にまつわる豆知識をニュースレターで発信しています。広く公共施設等で配布し、市公式ウェブサイトに掲載するほか、市内の高校、大学などにも送付しています。

ニュースレター発行の目的は、講座を受講していない一般の方が読んで、水の循環に興味を持っていただくことです。表現のわかりやすさ、デザインの親しみやすさに配慮することはもちろん、全く初めて「水の学校」を知る方でも講座の概要が把握できる文章構成になるよう心掛けています。講座に参加した方にとっても、講座では伝えきれなかった情報を得られる「水コラム」を掲載しています。コラムでは武蔵野市の上下水道や地形、水収支、森林整備の取り組みや都内の湧水、世界の水事情、水の汚れの指標や体内の水分布の話まで、その時の講座とかかわりのあるさまざまなテーマを取り上げています。

2017年度から講座レポートをサポーターが執筆しています。最初のうちは形式を決めずに原稿依頼をしていましたが、初めてニュースレターを手に取る方に伝える文章として情報不足になることを防ぐため、2018年度からは共通の様式を作成し、執筆する側も何を記載すればよいかわかるしくみとしています。



制作方法の変遷

雨水市民の会

「水の学校」立ち上市民の学校」立ち上市民の会が委託れ内民の報告書を兼成・原稿を作成、下水道課がしていた。

市との協働

市職員が原稿案を 作成し、雨水市民 の会が編集を行う ようになりました。

サポーターへの 執筆依頼

サポーターが各 座のり、分担して になり、分担しるよ になりました。編 になりました。編 にないました。 にないました。

市・サポーターで 執筆・編集

Excelで編集を行えるようにしたことで、編集作業を市が行えるようになり、作業の効率と持続性が高まりました。

事務局コメント 制作方法が変遷する度に、ニュースレター発行の目的や、形式などについてNPO法人雨水市民の会との認識のすり合わせを行いました。市職員は異動があり、サポーターも毎回違う方に原稿をお願いするため、本来の目的にかなったニュースレターを継続して発行できるよう、フォーマットの整備を行いました。今となっては市の「水の学校」担当職員も過去の講座の内容を確認するために使用するなど、貴重な記録資料となっています。

武蔵野市 水の学校 ニュースレター



🥶 2017年度の活動 🕒

下水道課の職員が講座の企画から当日の運営までのほぼ全てを担う形となりました。水の 源、水の行方という広い視点の水循環に加えて、第5回講座では武蔵野市の下水道事業と して取り組んでいることを紹介しました。



2017年度の修了バッジ

連続講座=



6月17日(土) 開校式 \sim もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

開校式に続いての橋本名誉校長によるアクティビティは、 恒例の体験プログラム「驚異の旅」に浄水場などの人工の 施設を加えた「ブルートラベラー」と、架空のまちに上下水 道を敷設し費用を計算する「正当な価格」でした。受講生 からは「細かい条件がほしい、現実に忠実でない」など、真 剣に取り組むがゆえの意見がありました。

事務局コメント 冒頭の「むさしの水クイズ」はサ ポーターによる進行・解説を行い好評でした。サポー ターは午前中から集まって打合せとリハーサルを行 い、本番に備えました。また、早いうちから交流を深め ようと、初回講座後に交流会を行いました。

▶ 7月8日(土) 武蔵野の水はどこから? ~水道水がつくられる場所を訪ねてみよう

市民の暮らしに欠かせない水道水につ いて、浄水場や水源井戸を見学し、アク ティビティでは各受講生が水を利用す る企業等になったと仮定して、河川や地 下水の利用配分量について考え実践し ました。ワークショップでは水の使い方 について改めて見つめ直し、今できるこ とについて意見を交換しました。

事務局コメント 最新技術を採り入れる 一方、水質管理に金魚が指標のひとつとして 使われていることにとても驚きがあったようで す。プロジェクトWETのアクティビティでは雨 水市民の会の笹川さんが講師となり、「水差し をまわそう」を実施し水利権について学びまし た。わかりやすい体験でしたがもう少し大人扱 いしてほしいとの意見もありました。



🗿 9月9日(土) 使った水はどこに行く? ~森ヶ崎水再生センター見学





武蔵野市の汚水の処理をしている3か所の水再生センターのうちのト つである森ヶ崎水再生センターを見学しました。三鷹駅で集合し、バス で向かう道のりの長さに、受講生からは「自分たちの流した下水もこん な長旅をするのか」と驚きの声がありました。往路バス内で受講生各々 の「水に関するエピソード」を聞くと、発展途上国での上水道設計の経 験の話などもあり、受講生の層の厚さを感じました。見学後には「友人・ 家族に伝えたいこと」をテーマに受講生同士での話し合いをしました。

受講生コメント 武蔵野市の汚水は、自前の処理施設を持たず、他地域 に依存していることを市民はもっと自覚して節水を心がける必要があり、他の 市民にも伝えていきたい。

事務局コメント
下水を受け入れた水再生センターが排出するものは、 大きく分けて「再生水」と「汚泥」の2つです。汚泥処理の現状や、有効利用に ついて興味を持つ受講生やサポーターも多く、経費や需要状況などについて も質問が上がっていました。



↑ 10月 | 4日(+) 雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川 ~仙川・野川と国分寺崖線

ねらい

仙川・野川・深大寺を見学し水循環の現状を知ってもらい、生活と流域(他市)との関係・つながりを意識してもらうことに重きをおきました。また、これらを踏まえ、次回の施設見学につながる講座としました。

「水の学校」4年目にして初めての雨の中での講座で、お昼は残念ながら大型バスの中でしたが、トラブルなく進めることができました。事前打合せでは①お弁当を忘れた場合どこで購入するか②バスの中でのプログラムについて③見学中の大型バスの待機場所の手配などを主に注意しました。反省点としては、どのくらいの距離を歩くのかなどをきちんと受講生に予め伝えておくことが必要と感じました。



6 Ⅰ Ⅰ 月 Ⅰ 8日(土) まちを守る下水道施設 ~ 武蔵野市内地下施設見学ツァー

ねらい

下水道課職員が講師となり、吉祥寺東町の合流式下水道改善施設内部の見学、吉祥寺北町雨水貯留施設周辺の特徴的なすりばちくぼ地の見学と施設概要に関する講義を行いました。その後、「武蔵野市内の水の流れと、市民にできることを考える」をテーマにワークショップを行いました。

受講生コメント 市に大きな施設があるのを知らなかったので、来てよかったです。

事務局コメント 質問に答えるため、職員も事前に図面を見るなどしてよく調べて臨みました。結果的に複数の職員が説明できるようになり、スキルアップにつながりました。



6 12月16日(土) 最終講座・修了式「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

橋本名誉校長を講師に最後のグループワークを行いました。修了式では松下市長からこれからへの期待と激励の言葉と共に修了証が渡され、新たな修了生のみなさんが誕生しました。

事務局コメント 10月、市長が変わった ことにより、事前打合せでは水の学校の概要 から説明しました。

全6回の講座を受けて受講生からは、今まで気にしていなかった水循環を意識するようになったなどの感想が多く寄せられました。

受講生 **27**名 サポーター**14**名

オープン講座・イベント

講座を考え、運営するための研修を行ったり、サポーター主導で連続講座の内容を深めるステップアップ講座を企画するなど、お客様の立場ではなく、主体的に「水の学校」に関わる仲間が増えてきたことを講座のラインナップからも実感することができました。



5月20日 (土)

プロジェクト WET エデュケーター講習会

例年、第 I 回講座では水について体験しながら楽しく学べているのではなっているのがです。この元になっているの中では水ででなっているのがであれている水教ュケーのプロとれている。誰取るこはでもないでも、エデュを使ってあるようになります。丸 I ターではないはに、 はいました。 といる が エデュケーター が など I 4名 が エデュケーター 資格を取得しました。



事務局コメント 「水の学校」サポーター向けにエデュケーター資格取得のための講習会を行い、職員もスキルアップのために一緒に受講しました。資格はその後の講座やイベントで活かされています。

10月21日 (土)

ステップアップ講座 世田谷区・国分寺崖線の湧水めぐり

サポーター企画の一般をは か、上級者 向けの 講座を は か、という話からいくで 連続これで がとがった中で、特にいうだいの関連を 学べると 市内 川との 大の関連を 学べる、。野川との 行るを は が 上がったりと 追が かったりを は 都内の でを は 都内の の一を なを 有ら 知 な が 人気 で 運んで 確か が 人気で な 話術が 人気で ひ な ま で と で みな話 術が 人気です。



事務局コメント 世田谷 区は、世田谷トラストまちづく りという財団があり、そのおか げもあって湧水周辺の自然環境が守られています。お金があるかどうかは、重要なことなんだなという参加者の感想が印象的でした。

関連イベント

校庭の下に巨大施設あり!雨水貯留浸透施設見学会(千川小学校) 8月8日(火)

市では小学校の校庭地下に雨を一時的に蓄え、浸みこませる施 設を設置しています。大きく掘った校庭の地下に、部品を積み上げ る様子を見られるチャンスは工期の中でも1日。「写真では本当に 埋めていると信じられなかったが実際見るとよくわかる。もっとい ろいろな人に実際に見て欲しい」との声も。

12月22日(金)女子大通り幹線管渠更生工事現場見学会(女子大通り<三中北側>)

多くの家庭からの下水を集める太い管を幹線と言います。幹線が 耐用年数を迎えた場合、取替え工事を行うと長期間にわたって下 水道が使用できず、地域の住民に大変な不自由を強いることにな ります。そこで下水を止めずに流したまま内側から管を更正し、寿 命を延ばす工法が用いられています。管内の映像を地上からリア ルタイムで見ながら見学を行いました。

5月3日(水・祝) 武蔵野ファミリーフェスタ環境部ブース出展(井の頭公園西園) 5月20日(土) 水防訓練(市立むさしの市民公園)

9月3日(日) 吉祥寺東部フェスティバル(本宿小学校)

サポーター活動

4月27日(木) 神代農場見学

サポーターの草木さんがメンバーに呼びかけ、参加者16名が 調布市にある神代農場、神代自然公園、調布野草園を見学 しました。農園の中は、チョロチョロと湧水が流れており、昔は 今よりも多かったとの草木さんの歴史を感じる説明に耳を傾 け、うなずく場面が多く見られました。農園内では、カタクリや タケノコ、ワサビの栽培も行っており、自然に満ち溢れた緑の 空間の中、深呼吸がいつもより自然と大きくなりました。



8月25日(金) 武蔵野市クリーンセンター見学会と意見交換会



この年の4月に稼働を始めた新クリーンセンターについては、サポー ターミーティングなどでも度々話題となっていました。エコプラザ(仮 称)検討委員会にサポーターが委員として入っていることもあり、見 学会と合わせて、エコプラザについて自由に意見交換を行いました。 現在のクリーンセンターは、平日日中なら誰でも見学することができ ます。団体の場合、事前申し込みにより解説を行うこともできます。

他の環境分野との関わり

サポーターのうちの | 名が武蔵野市環境市民会議の第10期の委員として、市の環境保 全に関する基本的事項を調査・審議しています。その他にも、さまざまな環境団体に所 属し活躍しているサポーターもいます。

事務局カレンダー

・パンフレット入稿

4 月・市報入稿

・サポーターミーティング

・初回講座打ち合わせ 5 月 · 連続講座募集期間

ファミリーフェスタ出展

・プロジェクト WET 講習会

・第2回講座打ち合わせ・初回講座

・第3回講座下見

月・第2回講座

・サポーターミーティング

・下水道展ミーティング、 リハーサル

8 月

・下水道展ブース出展

・第3回講座

9月・第4回講座下見

・ステップアップ講座下見

・第4回講座

月 第5回講座下見

・ステップアップ講座

・第6回講座打合せ

月 ・環境フェスタブース出展

・第5回講座

・第6回講座、修了式

2月・サポーター登録

・サポーターミーティング

・サポーターミーティング

外部のイベント出展のための 調整が多い年でした。



Pick Up 2017

8月1日(火)~4日(金) 下水道展'17東京ブース出展



下水道展に武蔵野市が出展する意義は、下水について知ってもらうことではなく、武蔵野市独自の取り組みを全国に知っていただくことにありました。 市民とともに講座を作り、行動につなげる「水の学校」、そして「合流式下水道改善施設」を体験しながらわかるブースを目指しました。

ブース運営とあわせて行われた、下水道展のシンポジウムでの事例発表をきっかけに、国土交通省の「下水道の市民科学」プロジェクトのモデル調査 先都市に選ばれ、第5回講座での委員の視察につながりました。

「子ども向けに」という主催者側からの意向を踏まえて、小学校低学年でも楽しめるアクティビティを考えました。連続講座で実施した体験プログラム「驚異の旅」を武蔵野市版にアレンジし、教員経験のあるサポーターとともに子どもを惹きつけられるような進行を作りました。また、今まで大人をターゲットにしていた配布物を子ども向けに改めました。すべての漢字にふりがなを振り、表現をわかりやすくしつつ、正確さを保つことに苦労しました。

出典期間中はブース運営、シンポジウムでの事例発表のほか、下水道展と虹の下水道館をめぐる親子向けバスツアー、視察対応、さらに通常の下水道課業務と、同時期に集中して人手が必要になり、下水道課職員全員の予定を調整して乗り切りました。



下水道の市民科学

「水の学校」サポーターの活動が広がりを見せた 2017年度ですが、今後については、市との関係を保 ちながら継続・発展していけるかどうか、仕組みづく りの再検討が必要な時期に差し掛かっていました。 そんな時に声がかかったのが、国土交通省がすかめる「下水道の市民科学」(市民が調査研究に参加する)のモデル調査でした。市とサポーターをはじめくする市民にとっては、全国の状況を知るだけでなく、活動を広く市外にも発信するチャンスとなります。 るた、これまで関心があっても手法がわからずまとめの 選択肢となります。この年の第5回講座では国土交 通省の「下水道を核とした市民科学プロジェクト」の 有識者メンバーが講座内容の視察を行い、講座後にはサポーターとの意見交換会を行いました。



コラム サポーターミーティングとは?

4



「水の学校」のサポーターは連続講座の修了生で構成されており、その活動には、大きく分けると以下の3つがあります。

- ①自主活動: 興味関心のあることを | 人または他のサポーター等と一緒に調べて知識を深め、共有する
- ②講座にかかわる:講座の企画・運営に携わる
- ③伝える: 今までにない「伝える」手法の提案や市以外の主催イベントに出展・発表する

連続講座で学んだことから更に知識を深めていくために、どのような取り組みを行うか、あるいはどのように伝えれば今後の連続講座が一層充実したものになるのかなど、多方面の視点から自由に提言できるミーティングを開催しています。

ミーティングは各自で自主的に取り組んでいる水にまつわる活動の情報交換の場にもなります。

受講生やサポーターからの声がその後の講座の内容を変えることもあります。

例えば、「水の学校」3年目に受講生から「もっと市の事業が知りたい」という意見が出ていましたが、どのように講座に取り入れるか具体的には決まっていませんでした。サポーターミーティングにおいて、サポーターから「普段なかなか目にすることができない市内の大型貯留施設の見学を入れてはどうか」という意見が出され、4年目の連続講座で実現させた実績があります。参加した受講生からは、「施設見学を通じて下水処理の重要性を認識することができた」「有意義で良い体験ができた」といった声が多く寄せられました。

ミーティングは、今後の連続講座やイベント、自主活動を充実させる、市とサポーター双方にとって意義のあるプロセスです。

事務局コメント サポーターの自主的・自発的な行動が「水の学校」の重要な一部となっています。

ミーティングはインプットとアウトプットを兼ね備えた場であり、それぞれのサポーターの得意分野を十分に発揮できる場で もあります。

サポーターミーティングに参加していると、市長が連続講座の修了式で「修了証であり卒業証ではありませんよ!」と言う意味が、とても良く理解できます。また、サポーターのイキイキした発言がとても印象的で、職員も水に関する知識が深まります。

今までのサポーターミーティングでのテーマ(抜粋)

- ・「環境フェスタ」でやってみたいこと
- ・武蔵野市の水循環・水収支について (武蔵野市の水をとりまく課題の共有)
- ・「連続講座」の役割分担について
- ・今後の「連続講座」でできること・やりたいこと
- ・イベントブース出展 (井の頭公園100周年、下水道展、環境フェスタなど)について
- ・「水のまちあるき地図(仮)」を作ろう
- ・まちあるき、イベント、地図作りを考える
- ・湧水に関する冊子づくりについて
- ・下水道展と子ども向けプリントについて
- ・今年度開催予定のイベントについて
- ・サポーター自主活動報告
- ・武蔵野市の現在の施策、これからの計画、課題









🧭 2018年度の活動 🦭



無作為抽出による周知を増やしたこともあり、これまでで最も多い40名が受講しました。受講生 の年齢もバックグラウンドも様々ですが、運営側のスキルアップもあり、グループワークもスムー ズに進むようになりました。第4回のまちあるきではサポーターが解説役を務めました。



2018年度の修了バッジ



連続講座=



1 6月9日(土) 開校式 ~もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

開校式では松下市長から受講生へ激励の 言葉、続く講座では橋本名誉校長による水 循環アクティビティーとサポーターによる 「むさしの水クイズ」が行われました。

事務局コメント 「みなさんこんにちは!」で今年もスタートした連 続講座。6割以上が無作為抽出で参加された受講生であり、講座後の 感想として「水の動きについて体験的に実感できて興味が湧いてきた」 「今後の講座がわくわくする」などといった声が多く寄せられました。



7月7日(土) 武蔵野の水はどこから? ~水道水がつくられる場所を訪ねてみよう



普段何も考えずに蛇口をひね れば出てくる水道水は、私たち が使う水、飲む水として大切な 役目を果たしています。この講 座では、市の第一浄水場の見 学や、飲み比べで水の違いを 発見し、断水時の水を考える ワークショップを行いました。

事務局コメント 浄水場の見学では、「普段は入れ ないところを見学できたのでうれしかった」「普通に使っ ていた上水を供給するまでにこんなに多くの手間をかけ ていることを知り、ありがたい」などの感想がありました。 ワークショップでは、雨水市民の会の高橋朝子さんが講 師となり、非常時に使える「ろ過装置」を受講生が作成 し、「ティッシュでこんなに水がきれいになるなんて」など ビックリしていました。今回の受講生は若い方が多く、熱 心に学んでいるのが水に対する関心の高さを感じました。



バスで多摩川上流水再生セン ターを見学し、川底の下の連 絡管を歩いて八王子水再生セ ンターへ向かいました。見学 後の質疑の時間には半数以 上の受講生から質問があり、 充実した時間となりました。

事務局コメント 受講生から事前に質問を集 めておき、当日水再生センターに到着した時に回答 を配布してから説明や見学を始めたことで、より理 解を深めることができました。往路バス内ではサ ポーターが進行役となり皆さんの水の思い出を聞 きました。また、7月の講座の宿題となっていた各家 庭での水利用の解説もサポーターが行いました。



🗥 l0月l3日(土) 武蔵野台地の水のみちをたどる~神田川、仙川、玉川上水と千川上水

水の学校が一つの区切りを迎えるこ の年に、当市にとって地理的・歴史的 にとても重要な神田川、仙川、玉川上 水、千川上水をたどり、受講生に武 蔵野市の身近な「水」を体感し、考え てもらうことを目的としました。

事務局コメント 身近な水を考えてもら うため、自分の住まいに近いコースを歩けるよ うに班分けをしました。それぞれのコースにな じみの深いサポーターに案内役をお願いしま した。コース下見は丁寧にすべきですが、3 コースあったので効率的な手段を考える必要 がありました。まち歩き中の写真データを回 収し投影する作業に手間どらないよう予行演 習が必要でした。

千川上水コース、仙川コース、玉川上水・神田川コースの3つのコースに 分かれてまち歩きをしました。初めに受講生には①歩く川・水路は、まち のなかではどのような場所か②人々はどのように川・水路を見ているか、 利用しているか③疑問に思ったところ、調べてみたいと思ったところはあ るか、の3点を問いかけました。仙川コースはこの3点に加えて、仙川の 将来のあるべき姿を考えながらまち歩きに臨みました。まち歩き後、ワー クショップを行いました。各コースをおさらいした後、はじめの3点の問 いかけを受けて感じたことを出しました。そして撮影した写真の中から、 他のグループに伝えたいものを選んでもらい発表しました。





6 Ⅰ 月 17日(土) まちを守る下水道施設 ~武蔵野市内地下施設見学ツァー

市の下水道事業の概要説明後、バスで吉祥寺 東町一丁目合流改善施設の見学、吉祥寺北町 雨水貯留施設周辺の見学を行い、市役所に戻 りワークショップを行いました。

事務局コメント 見学場所や周辺の道路が狭く、マイクロバス で2班に分けて見学しました。前年度は2班が時間差で同じルート を見学して班が混ざってしまった反省から、この年は2つの施設を I班ずつ逆順で回ることで混乱を避けました。

6 12月8日(土) 最終講座・修了式「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

この年の講座内容を写真と共に振り返りながら、グループごとにPKT(ぺちゃく ちゃタイム)で自由に話し合い、講座の受講を通して行動や意識に変化があっ たことについて共有しました。その後、「水について『伝える』を企画するとした ら?」をテーマに興味の近い人とグループを作り、「やりたいこと」「なぜ」「どのよ うに」で構成される紙芝居を作りました。講座終了後は松下市長からの修了証 授与と挨拶、そして橋本名誉校長からは修了バッジの贈呈がありました。会場 外の飲食店で行われた有志の交流会では、名刺交換をする姿もありました。

ねらい

各年の最終講座では、各々が受講 前と比較し、気づきがどのように あったのか知るとともに、学んだこと をアウトプットするきっかけをつくる ことを目的としています。その後の活 動につなげるためのサポーター制 度を改めて紹介し、交流を促進する という役割もあります。

事務局コメント この年の 講座ではグループワークに模造 紙を使わず、A3の用紙を活用し ました。紙芝居は橋本名誉校長 のアイデアですが、どのグループ も混乱なく作成しており、グルー プワークのまとめと発表の手法 にはさまざまな工夫ができること に気づかされました。



受講生40名 サポーター13名

ステップアップ 講座・イベント

「もっと知りたい、深めたい」「自分の経験、知識を伝えたい」というサポーターや 受講生からの声に応え、ステップアップ講座に力を入れました。サポーターが外 部のシンポジウムなどで得た情報・人材を紹介してくれたり、自ら講師を務めるな ど、サポーター活動の今後の可能性を感じると同時に事務局の体制、役割分担 などについても検討を重ねました。



6月20日 (水)

ステップアップ講座 武蔵野台地の地下水の動きと私たちの身の回りの水循環

サポーターの内田さんが案内でとなり、井の頭と為水の見学と、かいぼりについてお話をしまた、八千代エンジニヤリング(株)の吉田広人 台地を講師に招き、武蔵野などもの地層の調査データなどをあれていました。



事務局コメント 井の頭池の見 学での解説はとても有意義で、雨が降っていたことも井の頭池の水について考える点でむしろ好条件でが、定屋外で使用したスピーカーが途中でバッテリー切れになり、屋外で使用したスピーカーがをにスピーカーがはないない。八千代エンジニヤリング(株でした。八千代エンジニヤリング(株でしたが、パワーポイントやワークシートを使った参加型のわかりやすい説明で、参加者には好評でした。

8月6日 (月)

ステップアップ講座 健康と自然環境



事務局コメント ターミーティングで、武蔵野市には 大人が学べる自然科学の講座が上がり、 せっかく専門的な話ができる方もサポーターにいるのだから、「水の学校」から発信しようということに行うとを視野に入れて、まずは「水の学校」受講生とサポーター向けに行う学校」で関係部署の職員にもした。関係部署の職員にもした。 10月24日

ステップアップ講座 旧三河島汚水処分場喞筒場施設見学

マイクロバスで現地に向かう道中、水に関する ○×ビンゴゲームと三河島の映像資料の視聴 を行いました。見学終了後、サポーターの立案 で、希望者のみ現地解散し三河島周辺のまち 歩きツアーをしました。



事務局コメント 2015年 度の関連イベントに参加したサ ポーターから、「まだ見学して いない人にぜひ見てもらいた い!」との声があり、ステップ アップ講座として実施しまし た。案内役の三河島汚水処分 場喞筒場の職員の力添えと企 画責任者のサポーターの内田 さんが事前に綿密に下見や連 絡調整をしたことで、スムーズ な見学会でした。日本の近代 化黎明期の人々の情熱が伝わ る遺構を目の当たりにし、多く の参加者は感銘を受けている 様子でした。ただ、見学会が全 体的に駆け足の説明になって しまい、参加者からはもっと ゆっくり説明を聞きたかったと いう声もありました。

関連イベント

5月19日(土) 水防訓練(市立むさしの市民公園)

10月14日(日) 吉祥寺東部フェスティバル(本宿小学校)

9月25日(火)~10月10日(水) 市役所ロビー展示

11月11日(日) むさしの環境フェスタ

サポーター活動

活動が4年目に入り、サポーターを中心にステップアップ講座の企画・実施を行いまし た。また、市が発行する「季刊むさしの」にインタビュー記事が掲載されたり、各自の所 属するコミュニティで水の話をするなど活動は広がりを見せています。

湧水や水に関わるスポットをめぐる自主活動「湧遊会」の行事も継続して開催されました。

2018年度の湧遊会の活動

4月13日(金) **日野の湧水群散策:黒川清流公園、図書館下湧水群など**

4月25日(土) 新宿御苑の巨樹観察と渋谷川の源流散策

5月21日(月) 深川散策

6月23日(土) 新宿区おとめ山公園の湧水散策

9月15日(土) 東久留米市南沢緑地周辺の湧水見学

|12月|日(火) 飯田橋周辺、紅葉と湧水見学

|月26日(土) 多摩湖周辺の湧水めぐり

事務局カレンダー

・パンフレット入稿

4 月 ・市報入稿

・サポーターミーティング

・初回講座打ち合わせ

・連続講座募集期間 り 月 ・サポーターミーティング

· 初回講座

月 ・第2回講座打ち合わせ

・ステップアップ講座

・第3回講座下見

・第2回講座

・サポーターミーティング

8月・ステップアップ講座

·第4回講座下見 月 · 第3回講座

・第4回講座 り月 ・ステップアップ講座

·第5回講座下見 月 ・第5回講座

・第6回講座打ち合わせ

第6回講座、修了式

2月・サポーター登録

・水循環シンポジウムパ ネルセッション

・かいぼり報告会パネル 展示

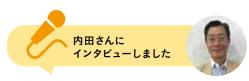
・サポーターミーティング

・サポーターミーティング

サポーターさんがいてこ その1年となりました。



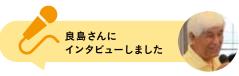




神田川・玉川上水コース

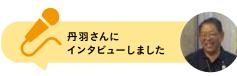
世界をみるサトボッち

井の頭検定試験(いのけん)、玉川上水を守り育てる会など、様々な活動と水の学校の内容が重なる部分があり、「水の学校」に「楽しく、深く」関わるようになりました。いのけんや玉川上水の活動が「小さく細かい」視点だとすれば、「水の学校」は水について「大きく広い」視点で考えることができます。講座当日は台風24号の影響で井の頭公園内にたくさんの倒木があり、歩く際に危険になりそうな事態が生じてしまいました。自然の脅威への対策と、自然の保全という対立した概念をどう両立させるか、考えさせられました。科学する心と多様な意見の交換を通して「学び楽しむ」心を忘れないようにしたいです。



仙川コース

昭和10年代頃の境地区では、玉川上水の分水路が街中を巡り、野菜や食器を洗うなど日々の生活に利用されていて、仙川も遊び場の1つでした。今回のまち歩きでは、仙川のリメイクされた場所やリメイクされていない場所、道路形態となり暗渠になってしまった箇所など様々なポイントを歩きましたが、今後また歩く際には、事前に仙川リメイクなどの資料を配布し、その目的や問題点・課題点等についてグループ内で共通認識を持ってから歩くのが効果的だと思います。今後の整備計画についても、現在のような仕切られた仙川の空間にするのか、昔のような地域と密接した憩いのある水路とするのが良いのかなど、参加者から色々な意見を聞いてみたいです。



千川上水コース

玉川上水から千川上水に分岐する取水口から吉祥寺橋がある練馬区の境までを散策しました。管理状況は非常に良く歩きやすく、また用水も浅く流れも緩やかでした。沿岸も整備されて鯉がたくさんいて近づいて見られました。途中に文字庚申塔や石橋供養塔、また井口家のオオケヤキがあり、それらを遠くで見て創作園を通過し、都立武蔵野中央公園で昼食を取りながら参加者から中島飛行機の跡地の昔ばなしを色々話してもらいました。長い距離を苦情もなく完歩しましたが、もう少し、調べて役に立つことを説明したかったという心残りもあります。最近いろいろな講演会で武蔵野・上水の歴史を聞いていますが、うまくまとめられず残念でした。

コラム

ステップアップ講座とは?



「水の学校」修了生・受講生を対象に2015年度からスタートした参加型講座です。連続講座では扱いきれないテーマやレベルアップした内容について取り上げます。講師、スタッフ、参加者間の対話を重視し、みなさんと一緒に武蔵野市が取り組んでいる課題を考えたり、水循環や水環境の問題を私たちに身近なところから考えたりします。

参加者にとってはより知識を深めることができ、市にとっては水循環に関する基礎知識を得た市民の目線で見た意見を得ることができ、事業運営に新たな視点をもたらすものとなります。また、今後生まれるであろう市民活動と市が連携するうえでの信頼関係づくりにも役立ちます。

初学者向けに毎年ほぼコースが決まっている連続講座に対し、ステップアップ講座では年度ごとに柔軟にテーマを設定できるようになっています。



これまでの開催実績

- ·2015年10月17日(土) 水循環·水収支
- ・2015年11月28日(土) 川と上水
- ・2015年12月19日(土) 下水道の施設更新・耐震化・使用料
- ・2016年3月21日(火) 武蔵野市の水道~伝えたいこと、知りたいこと
- ・2017年10月21日(土) 世田谷区・国分寺崖線の湧水めぐり
- ・2018年6月20日(水) 武蔵野台地の地下水の動きと私たちの身の回りの水循環
- ・2018年8月6日(月)健康と自然環境
- ・2018年10月24日(水) 旧三河島汚水処分場喞筒(ポンプ)場施設見学

実施方法の変遷

職員

2015年度、2016年度は武蔵野市が現在取り組んでいる水に係る施策について、担当者から直接説明を聞き、関連する現場を見た後で意見交換し、武蔵野の水と生活・まちの関係、そしてこれからの在り方を共に考える講座となっていました。

外部講師招聘、サポーター

2017年度、2018年度はサポーターがこれまでの経験や知識から他のサポーターや受講生向けに専門的な話をしたり、外部講師を招聘して学びを深めたりする講座となりました。

事務局コメント 2016年度から、サポーター企画の I 回完結型講座が実施されるようになりました。このうち内容によって、より専門的なものはステップアップ講座として水の学校で一通りの水循環を学んだ受講生やサポーターを対象とし、より入門的なものは一般向けのオープン講座として広く参加者を募集しています。サポーターの中では市と連携しない自主企画でも各々で学びを深める活動がありますが、市と連携するからこそできる講座もあります。また、一般向け講座を始める前の足掛かりとして、顔のわかる受講生やサポーター向け講座は取り組みやすくなっています。